

## 令和2年度「土壤医の会全国協議会」事業計画

### (1) 土壤医の会を巡る状況と課題

土づくり推進に関しては、今年度より農林水産省の補助事業である「データ駆動型土づくり推進事業」が3か年計画でスタートすることになり、一層、科学的なデータに基づく土づくりの導入と普及が図られることとなった。本事業は、(一財)日本土壤協会(以下、協会)、土壤医の会全国協議会(以下、全国協議会)、(株)NTTデータ、関係県による土壤診断データベース構築推進協議会を結成して推進していくこととしており、産地の選定、土壤診断による改善は全国協議会が中心になる。

本事業の推進は土壤医の会にとって土壤診断の実践研修の場であり、仲間を増やす機会になるとともに、土壤医の会や会員の社会的認知度を高める機会ともなり得ることから、積極的に対応していく必要がある。

人材育成や土づくりの普及を目的として実施している土壤医検定試験については、最近、企業関係者の受験者数が減少傾向にある一方で、農業者(含農業法人)、農業大学校生等の受験者数が増加してきている。今後一層、若年層や農業者等に重点をおいたPRや支援活動が必要である。農業高校生については受験者数が伸び悩んでいるが、令和4年度から土づくりに関するカリキュラムが強化されるという動きがあることから全国協議会としても引き続き土づくり教育の支援をしていく必要がある。

土壤医の資格登録者数は、2020年3月現在3,698名で、昨年6月の3,766名から若干名減少した。これは登録期限切れ、更新手続きの遅れが当面の減少要因となっているが、基本的には2級、3級合格者の資格登録率の低さが大きな要因となっている。

今後、資格登録のメリットをPRするとともに、2、3級合格者や土壤医の会のない地域の資格登録者の登録更新のしやすさについても協会とともに検討していく必要がある。

資格登録者を中心とした土壤医の会は、昨年4月以降、本年6月までに新たに6組織(うち5組織が地域土壤医の会)が結成され、事業体土壤医の会数14組織と地域土壤医の会数18組織、合計32組織となった。

しかしながら、地域土壤医の会の組織化に関しては、土壤医の会の空白地域がまだ多いことや、正会員数が少ないなどの問題があるので、一層、地域土壤医の会の組織化を推進するとともに、正会員の増加を図っていく必要がある。このため、正会員となるメリットをPRするとともに、今後、一層、そのメリットを高めていく必要がある。

土壤医の会の活動については、昨年度、「土壤医資格登録と継続研鑽に関する要綱」が改正され、小さな業績でも申請できるなどとともに、新たに会員以外の農業者等を対

象とした研修会や pH 等測定・診断相談会など土づくり普及のための社会貢献活動も申請対象とされた。

また、優良土づくり推進活動の表彰制度については、昨年度から農林水産省生産局長賞が設けられるなど一層強化され、土づくり活動の成果が評価され、PR される機会が増えた。

しかし、現状において会員のこうした制度の活用は十分でなく、土壤医の会の活動の活性化等の観点からも今後一層、取組みを促進していく必要がある。

## (2)活動方針

土壤医の会を巡る状況や課題を踏まえて、次のことに重点を置いて推進していくこととする。

今年度は、特に「データ駆動型土づくり推進事業」の実施を通じて土壤医の会の会員になるメリットが一層享受されて仲間が増えていけるように努める。

### 1)空白地域を中心とした地域土壤医の会の組織化推進

地域土壤医の会の組織化に関しては、「データ駆動型土づくり推進事業」の取組み拡大のためにも、土壤医の会の空白地域を中心に組織化を進めていく必要がある。(特に東北、北関東、東海、中国、南九州地域等での組織化が不十分。)

このため、昨年度と同様に、協会と連携して組織化の核となる方を見出し、その方を中心に組織化がなされるよう支援していく。

### 2)土壤医の会の会員等の研鑽、交流活動の促進

「データ駆動型土づくり推進事業」の実践や研修会を通じた研鑽機会等の拡大(会員の土づくり診断能力等の向上と農家等との交流機会の拡大)

「データ駆動型土づくり推進事業」においては、事業実施産地で、極力、現地で土壤物理性の見方等について、土壤医の会の会員、関係農家や関係機関の方々を対象に現地研修会を行うとともに、次年度において、土壤診断結果等に関する説明会を実施することとしている。

こうした場に土壤医の会の正会員はもとより資格登録されていない方、関係農家などの参加を求め、つながりを持ち、土壤医の会の活動への関心を持ってもらうようにする。また、こうした場を通じ、まだ資格登録されていない方々に対しては、登録を勧めるとともに地域土壤医の会への加入を勧めていく。

### 土壤医の会通信の発行による会員間の情報交流の促進

(会員間の連携強化と土壤医の会会員となるメリットの向上)

「データ駆動型土づくり推進事業」の動きや各土壤医の会の活動の動きなどの情報を冊子にしてタイムリーに土壤医の会会員等にメールで提供していく。(本年5月からスタート)

これにより、「データ駆動型土づくり推進事業」の各産地での取組み状況、土壤物理性調査などの研修会の開催情報を伝えるとともに、現地調査活動の支援要請等現地の要

望を伝え、事業実施の円滑な推進にもつなげていく。

また、こうした通信の提供により土壌医の会会員となるメリットを高められるようにしていく。

会員以外の方をも対象とした研修会等の開催

(地域土壌医の会の仲間を増やしていく活動)

昨年度より CPD 単位のメニューに会員以外の方(農業者、農業法人、農協、貸農園等農業従事者、市民農園利用者等)をも対象とした土づくり研修会や pH 等測定診断会の開催といった土づくり普及に関する社会貢献活動が加わった。

地域土壌医の会においては、特にこうした活動の実施を通じ、会の活動への参加を呼び掛ける。また、土づくりの知識を身に着けるステップとして地域土壌医の会が開催する土壌医検定試験の受験対策研修会への参加等を呼びかける。

### 3) 土づくり活動成果の向上等優良土づくり推進活動の推進

土づくり成果の CPD 単位の申請について、現状では会員の小業績などの申請はまだ十分とは言えない。「データ駆動型土づくり推進事業」の実施等を通じ小業績などの申請への取組を拡大していく。

また、優良土づくり推進活動の表彰制度では、今年度は、個人部門、土壌医の会部門にかかわらず、農林水産省生産局長賞が2点に増える予定であり、土壌協会会長賞、全国協議会会長賞も複数の事業を表彰対象としている。表彰事業は、活動成果の向上や社会的評価を高めることにもつながるので、過去の表彰内容を協会ホームページ等で紹介し申請しやすくするなどし、応募を呼び掛けていく。

### 4) 農業者(含農業法人)、農業大学校等への土づくり普及推進

重点対象層への土壌医検定試験の PR と受験推進

土壌医検定試験の受験者は、最近農業者(含農業法人)、農業大学校生等が増加傾向にあり、今後も増加が見込まれる。

また、定年退職者等の新規就農者も最近土壌医検定試験に関心を寄せてきており受験者が増えつつある。

こうした、今後受験者が見込まれる層や関係機関に対して積極的な働きかけを行っていく。特に農業者(含農業法人)については、農林水産省の土づくりセミナー等を通じた土壌医検定試験の PR を行うとともに、「データ駆動型土づくり推進事業」の実施地区等における PR などを推進する。

特に、農業者(含農業法人)や JA 職員等に対しては地域土壌医の会が行う受験対策の研修会の開催が大きな効果を得てきている。

今年度も、地域土壌医の会においては、これらの地域の土づくりに関心を有する方々に参加を呼びかけ、受験対策の研修会を開催するようにしていく。

農業大学校等への出前研修の推進

農業大生校生の土壌医検定試験受験者は、長野、新潟、大分等の地域土壌医の会の努力により、その地域では年々増加している。

また、農業高校では令和4年度から学習範囲に土づくりに関する項目が加わる動きがあることから協会と連携し、出前研修に前向きな学校に対し働きかけ、出前研修の推進を図る。

#### 効果的な土づくりや土壌医制度のPRの推進

最近増えつつある新規就農者、市民農園の利用者等、個別に捉えられない層には、SNS投稿のように、手間や費用がかからず、大勢の人の目に触れる機会があるもの（facebookの農業者グループへの投稿等）を利用してPRしていく。

また、昨年度より土壌医の会の会員等に対して土壌医検定試験の受験や会員になったの農業経営や土壌診断実施上のメリットを記述してもらい、土壌医検定試験のパンフレットの付属資料として配布している。

今年度もこの取組みを継続するとともに、過去の資料については、協会のHP上で見れるようにしていく。

#### 5) 土壌診断を効果的に実施するための改善事例データベース整備の推進

土壌医資格登録者は、今後、一層、診断能力のレベルアップを図っていく必要がある。このため、昨年度までに実施した調査試験データとともに、今後、蓄積される「データ駆動型土づくり推進事業」の実施を通じたデータベースを活用してより診断能力の向上につなげていく。

また、優良土づくり推進活動表彰事業等の改善事例については、これまでに表彰された事例等を蓄積し、適切な診断と処方箋作成に必要なデータベースとして活用できるよう整備・充実させていく。

### (3) 各部会別活動

#### 1) 研鑽部会

地域土壌医の会の組織化を中心に推進するとともに、土壌医の会の会員拡大と研鑽、交流活動の促進、優良活動の表彰の推進を図っていくが、全国協議会の行事として、全国交流大会の開催や協会との共催による研修会等を実施する。

また、本年度より土壌医の会通信を発行し、会員間の情報交流を密にしていく。

#### ア. 全国交流大会の開催

多くの方の関心の高いテーマの講演、正会員や土壌医の会の優れた活動成果の発表、情報交流を主な内容とする全国交流大会を開催する。この中で優良活動の表彰式も行う。今年度の全国交流大会は、令和2年11月30日(月)に東京において開催する。

#### イ. 協会との共催による研修会などの開催

土づくり推進フォーラム講演会、土づくり推進シンポジウム(土づくり推進フォーラ

ム主催(事務局:協会))を、全国協議会と共催で実施する。

また、土づくり実践研修会について、中級・上級土づくり実践研修会は、全国協議会と協会との共催で、初級・中級土づくり実践研修会については、全国協議会、開催地の土壤医の会及び協会との共催により実施する。

今年度の初級・中級実践研修会の開催は、片倉コープアグリ土壤医の会と協会との共催で実施する。

◆日程:令和2年11月7日(土)~11月8日(日)

◆場所:片倉コープアグリ(株) 筑波総合研究所

## 2)調査研究部会

土壤診断を効果的に実施するためのデータベース整備や地域重要問題研究会を行う。

### ア. 地域重要問題研究会の開催

地域において重要な課題をテーマとして最近の研究成果や現地での取組み成果等を発表し、意見交換を行う地域重要問題検討会を行う予定である。

### イ. 土壤診断を効果的に実施するための改善事例データベース整備

土壤医の会正会員等がより適切な診断と処方箋を作成していくため、表彰事業等の事例を蓄積し、データベースとして整備していく。

また、今後、「データ駆動型土づくり推進事業」の構成メンバーとともに、「データ駆動型土づくり推進事業」の実施を通じたデータベースの活用について検討していく。

## 3)土づくり普及部会

農業大学校等の出前研修の推進とともに、会員以外の方々への土づくり普及や土壤医検定試験・資格登録制度等の認知度向上のための活動を行う。

### ア. 土づくり普及のための農業大学校等への出前研修の実施

農業大学校からの要請に応じ出前研修を実施していく。農業高校については、協会と連携しこれまでのアンケート調査結果等から、出前研修に関心の高い農業高校等に対し、その可能性について協議するとともに、実施可能な農業高校等に対して極力県内の土壤医や土づくりマスターの方を派遣していく。

### イ. 土づくりに関心の高い組織等に対する普及活動

pH、EC等の簡易測定診断相談会等、土づくり普及のための活動を通じ、土壤医検定試験・資格登録制度や土壤医の会についての認知度を高めるために、パンフレット配布を行う。

また、昨年度と同様、農業法人等土づくりに関心を有する組織に加え、貸農園等の企業や利用者へ配布を強化する。さらに SNS 投稿により facebook の農業グルー

プ等へのPRを行っていく。

(3)全国協議会の運営

1)第1回幹事会(4役会議)

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の問題から全員参加による幹事会ではなく、4役会議で次の議題について協議・決定する。

◆日時：令和2年7月28日(火) 13:30~15:30

◆場所：(一財)日本土壌協会 会議室

- ◆議題 1.令和元年度事業報告(案)及び収支決算(案)について  
2.令和2年度事業計画(案)及び収支予算(案)について  
3.その他

2)第2回幹事会と全国交流大会

第2回幹事会開催後、全国交流大会を開催する。

(第2回幹事会)

◆日時：令和2年11月30日(月)

◆場所：日比谷図書文化館

◆議題:令和2年度事業経過報告等

(全国交流大会)

◆優良活動の表彰

◆表彰者からの活動成果発表

◆講演

(未定)

## 令和2年度「土壤医の会全国協議会」収支予算(案)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1. 収入額 4,084,316 円

2. 支出額 4,084,316 円

3. 差引額 0 円

(単位：円)

科 目	2年度 予算額	元年度 予算額	差引増減 ( ) 額	備 考
1. 収入の部				
(1) 会 費	3,540,000	3,588,000	△48,000	ゴールド90(99)名、シルバー440(433)名
(2) 事業収入	175,000	175,000	0	全国交流大会参加費(40名 90,000円)、情報交流会参加費(26名 85,000円)
(3) 雑 収 入	5	5	0	利息収入等
(4) 前年度繰越金	369,311	722,664	△353,353	
収入合計	4,084,316	4,485,669	△401,353	
2. 支出の部				
(1) 事業費	818,220	818,220	0	
調査研究会費	200,000	200,000	0	地域重要問題研究会費
全国交流大会費	223,220	223,220	0	交流会会場借用、表彰関係費、講演講師謝礼、情報交流会費等
研修会等開催補助	15,000	15,000	0	出前研修会講師料3件
地域土壤医の会補助	380,000	230,000	150,000	① 地域土壤医の会助成 18団体@10,000円 ② 研修会助成等 200,000円
土壤診断支援D/B 整備費	0	150,000	△150,000	
(2) 幹事会費	300,000	400,000	△100,000	7/28 第1回幹事会、11/30 第2回幹事会開催費(会場費、旅費交通費等)
(3) 刊行物購読費	1,240,000	1,262,000	△22,000	「作物生産と土づくり」購読:ゴールド90(99)名、シルバー440(433)名
(4) 協会負担金	1,500,000	1,500,000	0	土壤医の会、全国協議会の活動等支援事務(土壤医の会要綱5条)
(5) 雑 費	10,000	20,000	△10,000	資料印刷代、銀行振込手数料等
(6) 予備費	216,096	485,449	△269,353	
支出合計	4,084,316	4,485,669	△401,353	